

健康交差点

企画：日本医師会
No. 6



古代人が食べていたのは何？

酒井シツ (順天堂大学医学部客員教授)

古代人はどんな生活をしてきたか、何を食べていたのだろうか。あるいは、どんな病気があったのか。近年、考古学の研究がすすんで、いろいろなことが分かってきた。

それをどうやって調べるのだ

ろう。実は、遺跡を調べるとき、便所を探す。便所の土を調べると分かる。土の中に、糞石という化石があれば、それを分析する。すると、魚骨や虫卵がでてくる。また、土を食品化学的に調べると、どんな穀類を食べていたかが分かる。このほか、墓を調べると、胃腸のあたりの土に、亡くなる直前に食べたものが残っていることがある。これらを調べた結果、古代人がカタクチイワシを食べていたことや、回虫、横川吸虫などの寄生がみつかる。寄生虫は古代から現代までどっこい生きていた。

病気には古いもの、エイズのように新しい病、天然痘のように消えた病気がある。最近、筆者は、こうした話を『病が語る日本史』(酒井シツ著・講談社発行)でまとめた。



日本医師会ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.med.or.jp/kousaten/>

病気や治療のことで何か分からないことがあったとき、気兼ねなく質問できる「かかりつけの医師」をもちっていますか？
「先生のいうとおりにしていれば大丈夫」という信頼感も大切ですが、病気は患者さんと医師の



医師とお話
していますか？

協力と理解があってこそ、克服できるものです。
自分の病気や治療法に関する質問や要望は、どんどん医師に伝えてください。医師も、患者さんのことを第一に考えているのですから。

ご不明な点は、お気軽におたずねください。

待合室に掲示し、患者さんにお見せください。

健康交差点では、皆さんからの「ご意見・ご要望」をお待ちしています。

日本医師会
「健康交差点」

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
FAX: 03-3946-6295
Eメール: kousaten@po.med.or.jp